

2010年12月21日

— 安藤財団 2010年度自然体験活動支援事業 —
「第9回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」

文部科学大臣奨励賞、安藤百福賞が決定

財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団（略称：安藤財団 所在地：大阪府池田市 理事長：安藤宏基）は、2010年度「第9回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」（後援：文部科学省他）の審査委員会を行い、今年度の表彰団体を決定しました。

学校部門の最優秀賞となる「文部科学大臣奨励賞」は、総合的な学習の授業で、野外活動に必要なロープワーク、事故への対処、火起こしや野外調理などのスキルを学び、これまでの授業で培った成果を秋のトレーニングキャンプで発揮させた東京大学教育学部附属中等教育学校（東京都）の「課題別学習『Outfitters Training』」が受賞。一般部門の最優秀賞である「安藤百福賞」には、「自我」の芽生えが顕著となる9歳の児童に焦点を絞り、「自立性」を育むプログラムを企画した独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立立山青少年自然の家（富山県）の「9歳のひとり立ち —ひとりでも何でもできるもん！！—」が選ばれました。

最優秀団体には、それぞれ副賞として100万円、チキンラーメン1年分が贈られます。その他に優秀賞が2団体、トム・ソーヤー奨励賞が4団体に贈られます。

なお、表彰式は、来年1月29日（土）、インスタントラーメン発明記念館（大阪府池田市）で開催され、ソロアルピニストの栗城史多（くりき のぶかず）氏による講演会も行われます。



財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団は、創設者 安藤百福（あんどう ももふく）の「食とスポーツは健康を支える両輪である」との理念のもとに、青少年の健全育成と食文化向上のための事業を行っております。陸上競技の支援事業、食創会「安藤百福賞」表彰事業、「インスタントラーメン発明記念館」（大阪府池田市）運営のほか、1983年の財団設立以来、自然体験活動の普及に取り組んできました。

トム・ソーヤースクール企画コンテストは、「自然体験活動は、子どもたちの体力、創造力、チャレンジ精神を育む」との考えに基づき、全国の学校や団体から自然体験の企画案を公募、その実施を支援し、優秀な活動団体を表彰するものです。また、安藤財団では、本年5月、長野県小諸市に子どもたちを身近な自然に案内する指導者を体系的・集中的に養成するため、「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター（略称：安藤百福センター）」を設立しました。この2つの事業を通じて、子どもたちの自活力を育む自然体験活動の底辺の拡大と、さらなる活性化を図っております。

事業概要

1. 名称 2010年度自然体験活動支援事業
「第9回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」
2. 目的 自然体験活動の企画案を公募し、ユニークで創造性に富んだ活動を立案した50団体に各10万円の実施支援金を贈呈。さらに50団体から提出された実際の活動報告書を審査、学校部門は文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般部門は安藤百福賞と優秀賞を授与し表彰します。
また、その内容をホームページ「自然体験.com」(<http://www.shizen-taikens.com>)で公開し、自然体験活動の振興をはかります。
3. 主催 財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団
4. 後援 文部科学省、池田市、池田市教育委員会、特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会
5. 表彰 [学校部門]
文部科学大臣奨励賞 副賞 100万円、チキンラーメン1年分
優秀賞 副賞 50万円、チキンラーメン半年分

[一般部門]
安藤百福賞 副賞 100万円、チキンラーメン1年分
優秀賞 副賞 50万円、チキンラーメン半年分

※他に、企画内容がユニークで、他団体の刺激や参考となり、今後の活動に一層期待できる団体に対し、「トム・ソーヤー奨励賞」(副賞 チキンラーメン半年分)を贈ります。

6. 審査委員会 委員長 安藤 宏基 財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団 理事長
委員 岡島 成行 大妻女子大学 教授
安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター センター長
飯田 稔 びわこ成蹊スポーツ大学 学長
節田 重節 特定非営利活動法人アウトドアライフデザイン開発機構 会長
星野 敏男 明治大学 教授
水野 正人 ミズノ株式会社 代表取締役会長 (順不同)

表彰団体

[学校部門]

文部科学大臣奨励賞

- ◆企画名 「課題別学習『Outfitters Training』」
- 学校名 東京大学教育学部附属中等教育学校
- 代表者 井口 成明（保健体育科教諭）
- 所在地 東京都
- 活動内容 総合的な学習の時間で、野外活動に必要なロープワーク、事故への対処、火起こしや野外調理などのスキルを学ぶ。秋にこれまでの授業で培った成果をトレーニングキャンプで発揮する。
- 受賞理由 今日学校教育の問題点と体験学習の重要性に着目し、綿密な授業の計画と実践を通して、生徒が新しい体験に積極的かつ自主的に取り組み、自然体験学習の成果が伝わってきた。特にコーディネーターとしての教諭の役割が注目される。また、体験学習から自己研究、自己活動と進んでいく今後の経過に期待し、長期的な実践を望む。「失敗から考えさせる授業」が大切というスタンスに賛同したい。学校で行う自然体験学習のひとつのモデルとして高く評価できる。

優秀賞

- ◆企画名 「ダイトレチャレンジ2010」
- 学校名 大和高田市立高田西中学校登山部
- 代表者 玉井 章進（校長）
- 所在地 奈良県
- 活動内容 登山技能の向上を図り、奈良県の屯鶴峯から和歌山県の槇尾山までのダイヤモンドトレール全ルート（約50km）を3回に分けて、生徒自らが地図でルートを確認しながら踏破する企画。
- 受賞理由 部活動に対する顧問教諭の情熱と部員の自主性を見守る指導法に特色がみられる。悪天候のため3回の登山が4回になったにもかかわらず、50kmの行程を全員が歩き通したことは特筆に値する。歩くことを通して、体力づくり、登山技能の習得の目的は十分に達成された。ただ、読図だけでなく、もう少し座学と実地山行を連動させた中学校登山部らしい仕掛けが望まれ、今後のさらなる活動に期待したい。

[一般部門]

安藤百福賞

- ◆企画名 「9歳のひとり立ち ―ひとりでも何でもできるもん！！―」
- 団体名 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立立山青少年自然の家
- 代表者 中舎 喜博（所長）
- 所在地 富山県
- 活動内容 「自我」の芽生えが顕著となる9歳の児童に焦点を絞り、「自立性」を育むように野外炊飯や登山など「ひとり立ち」への第一歩となる多様なプログラムを企画。
- 受賞理由 「9歳」に絞った点が新鮮な企画といえ、活動もオリジナリティに富んでいた。年齢を限定すると参加者募集が難しくなることが懸念されるが、473人という応募人数は驚きである。また、地域の社会教育施設との連携は有効で、プログラムに幅が出ている。ただ、少々詰め込み過ぎたという反省も見られるが、4泊5日では短かくなかったかなど、調査も取り入れてその効果を検証されることを期待する。

優秀賞

- ◆企画名 「無人島1週間自給自足生活 チャレンジアイランド2010」
- 団体名 特定非営利活動法人生涯学習サポート兵庫
- 代表者 山崎 清治（理事長）
- 所在地 兵庫県
- 活動内容 無人島で1週間という長い期間、1日の大半の時間を食材調達と調理に費やして、子どもたちが生きるための自給自足生活をおくるチャレンジプログラム。
- 受賞理由 無人島生活への徹底したこだわりを貫いているところが評価に値する。10の掟を前面に出し、無人島という環境を最大限に活かしている。スタッフトレーニング、安全管理を含め準備も万全で、スタッフの質の高さがうかがえた。島通貨「オーシャン」や語らいの時間、そしてプログラムがないなど、子どもたちにとっては貴重、かつ学びの多い体験である。ただ、サポートリーダーの人数が多いが、この点についての説明が欲しいところである。

トム・ソーヤー奨励賞

- ◆企画名 「持続可能な社会を目指し、自然とひとと伝統に触れる『山里子ども夏休みキャンプ』」
- 団体名 特定非営利活動法人ECOPUS
- 代表者 高野 孝子（代表理事）
- 所在地 東京都
- 活動内容 限界集落化が危惧されている集落で沢登りや川遊び、野外料理などの活動を行い、「指示しない」「怒らない」「世話をやかない」の3原則で対応し、自主的な成長を促す活動。
- 受賞理由 企画の目的と活動内容が具体的で、コンセプトが明確である。地域の人々、伝統、食べ物などを重視し、さらに振り返りをしっかり行ない、参加者の学習を促進しているところが評価に値する。また、地元とのつながりを築いているところが、成功の要因であったのだろう。子どもたちには楽しく、貴重な体験であったと同時に、地元の清水集落の活性化に役立ったことがうかがえる。ただ、既に完成されたプログラムという印象を受ける。
- ◆企画名 「おたり森の子クラブ2010」
- 団体名 冒険教育を推進する会
- 代表者 前田 浩一（事務局長）
- 所在地 長野県
- 活動内容 イカダの上での水上泊や秘密基地づくり、懸垂下降など普段の生活では味わえないダイナミックなチャレンジで「日常にはない大きな心の揺れ」を、子どもたちの心に感じさせる活動。
- 受賞理由 年間を通して、継続的・段階的にプログラミングをしている点が評価に値する。内容も大自然の中でのダイナミックな活動である。回数を重ねる毎に、子どもたちの成長の様子がうかがえる。その変化を何らかの方法で報告されることを期待する。ただ、専門家集団であるので、出来て当然という指摘もあり、一般の団体に再現方法をどのように伝えていくかが課題であろう。

- ◆企画名 伝統文化子ども教室「川を思いっきり楽しもう！！2010 夏」
 団体名 北川流域ネット
 代表者 矢野 純一（代表）
 所在地 宮崎県
 活動内容 川をコンセプトにした自然体験活動。孟宗竹でイカダ作り、ガニヒビ漁、柴エビ漁やうなぎ漁など、昔から流域に伝わる川漁の漁法を通して、生物の生息環境を調査する。
 受賞理由 地域の子どもは地域で育てようという主旨が、よく活かされている活動であった。日本の数少ない清流の一つ、五ヶ瀬川水系に伝わる漁法の体験なども子どもたちが将来にわたり、大切な水環境を守ることに繋がっていくであろう。一方で、反省点に挙げられているように、子どもたち同士の交流の時間の確保や、長期キャンプの実施に向けて指導者養成などの課題解決に取り組んでいただきたい。
- ◆企画名 「飛び出せ チャレンジ あはりっ子 ～ふるさとの海(自然)と仲良くしよう～」
 学校名 渡嘉敷村立阿波連小学校
 代表者 高原 泰代（研究主任）
 所在地 沖縄県
 活動内容 東シナ海に浮かぶ島の大自然に親しみながら、子どもたちが島を愛し、島の環境を大切にす気持ちを涵養させようとする熱心な海の体験活動。
 受賞理由 渡嘉敷島の素晴らしい自然環境と地域人材をフルに活用した内容が評価された。特に保護者や地域の方々が、積極的に活動を応援している姿がほほえましい。また、全児童がほとんどの活動に参加し、海洋安全教室で海上保安本部の協力を得ていることは、この島ならではの特徴であろう。ただ、昨年度の文部科学大臣奨励賞を受賞した渡嘉敷小中学校と類似したプログラムもあり、今後は新たな創意工夫に期待したい。

表彰式・講演会

日時	2011年1月29日（土）午後1時より午後3時30分まで
場所	大阪府池田市満寿美町8-25 インスタントラーメン発明記念館 2階セミナーホール
内容	①表彰式 ②活動報告 ③講演会 栗城史多氏 テーマ：「想いの実現」 エベレスト単独・無酸素登頂の挑戦を続けるソロアルピニストの栗城史多氏をお招きし、夢を実現する方法について経験を交えてお話していただきます。

詳しくは、<http://www.shizen-taiken.com> をご参照ください。

※ 表彰式・講演会への参加応募受付は終了しております。

（この件に関するお問い合わせ先）

財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団

事務局 荒金 善一、大饗 将行、野村 美紀

〒563-0041 大阪府池田市満寿美町8-25 TEL (072) 752-4335

（火曜日は休業日）